

## 【教職実践研究科（専門職学位課程）カリキュラム・ポリシー】

### （教育課程の編成）

本研究科のカリキュラムは、確かな課題意識と豊かな想像力と着実な実践力をもって、地域課題及び教育課題に果敢に挑むイノベーション人材（高度専門職業人）を養成するために、以下のように構成されている。

- ① 本研究科の教育目標は、理論と実践の往還を通し、「地域課題及び教育課題に果敢に挑むイノベーション人材としてのミドル・リーダー、次のミドル・リーダー、次世代のミドル・リーダー」を養成することである。
- ② イノベーション人材としての教員の基礎として、ディプロマ・ポリシーに定める「1. グローバルな視野とローカルな視点」と「4. 学際性、俯瞰性、課題発見力」を育むため、福島の復興課題やイノベーションの理論・手法や事例等を扱う「大学院基盤科目」である「イノベーション・リテラシー」を配置している。
- ③ 高度な専門性の基盤として、ディプロマ・ポリシーに定める「1. グローバルな視野とローカルな視点」「2. 専門的知識・技能」及び「3. 論理的思考力・分析力・表現力」を育むため、「共通5領域」を配置している。「共通5領域」は、教職における高度な専門性の基盤を幅広く育むための「教育課程の編成及び実施に関する領域」「教科等の実践的な指導方法に関する領域」「生徒指導及び教育相談に関する領域」「学級経営及び学校経営に関する領域」「学校教育と教員の在り方に関する領域」に加え、地域の課題やニーズに対応する「独自領域」から構成されている。
- ④ 高度な専門性の深化を図り、ディプロマ・ポリシーに定める「2. 専門的知識・技能」「3. 論理的思考力・分析力・表現力」及び「5. 応用力、実践力、還元力」を育むために、専門的かつ実践的な内容を扱う「選択領域」を配置している。「選択領域」は教職キャリアに応じて、「学校改革領域」「授業改善領域」「特別支援に関する理論と実践領域」から構成されている。
- ⑤ 理論と実践の往還を行う基盤として、ディプロマ・ポリシーに定める「5. 応用力、実践力、還元力」「6. プレゼンテーション力、コミュニケーション力」及び「7. コーディネート力、マネジメント力、課題解決力」を育むために、年間にわたる協力校での実習を扱う「学校における実習領域」を配置している。「学校における実習領域」は教職キャリアに応じて、「インターンシップ領域」と「学校実習領域」から構成されている。
- ⑥ 理論と実践の往還を通して、学生の興味関心に基づく専門性の高度化を図り、ディプロマ・ポリシーに示された7つの力全てを総合的に育むために、学生各自の研究テーマや年間にわたる協力校での実習等に基づくプロジェクト研究を扱う「プロジェクト研究領域」を配置している。「プロジェクト研究領域」は学生の興味関心に応じるため、「教育実践高度化領域」「学校課題対応領域」「特別支援教育高度化領域」から構成さ

れている。

(教育・学習方法)

学生が、ディプロマ・ポリシーに掲げた諸能力を獲得できるよう、講義、演習、実習等を体系的に実施する。事例研究、訪問調査、グループディスカッション、改善提案・発表など、主体的・対話的で深い学びが創出できるような教育方法・形により実施する。

(学習成果の評価)

成績評価は、S、A、B、C、及びFの5段階をもって表し、S、A、B、及びCを合格、Fを不合格とする。各授業科目では、シラバスにレポートや最終試験、実技・実演、作品等といった当該科目の「成績評価の方法」を明記し、可能な限り複数の評価手段によって成績を判定する。

履修基準表の46単位を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、教育実践報告書を提出し、ラウンドテーブルにおいて実践報告をすることを修了要件とする。